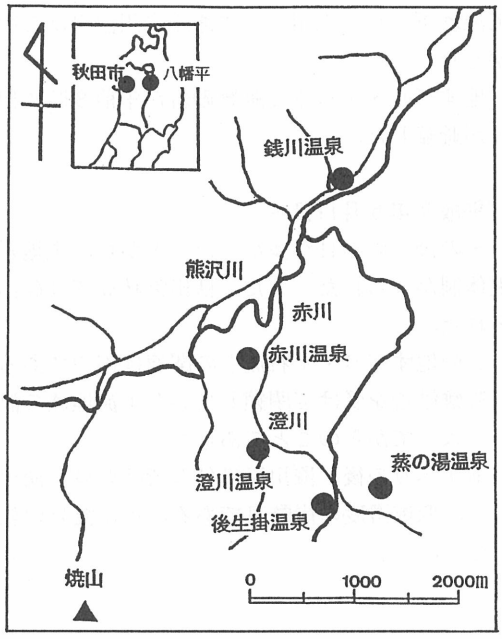
ニュース

秋田県八幡平の地すべり・土石流災害

1997年(平成9年)5月，秋田県八幡平地域で起こった地すべり・土石流災害は，澄川温泉の南側斜面で起こった約35ヘクタールもの大きな地すべりに端を発した．融雪時期であったことと5月7日から8日にかけての豪雨の影響で，現場の土塊が水に飽和状態であったと考えられている．

地すべりによってもたらされた膨大な量の土砂は，澄川温泉の建物全てを崩壊し，さらにその後土石流となって澄川，赤川に流れ込み，赤川温泉を呑み込み，約2キロメートル下流の国道341号を越えて熊沢川に流れ込んだ．この災害により，歴史のあるこれら2つの温泉が消失した．

その後，さらに地すべりが起こり，土石流が発生することが危惧されたことから，温泉施設の閉鎖や住民の避難等，多大の損害を受ける結果となった．住民の避難は7月下旬まで続き，八幡平は受難の年となった．



澄川温泉と赤川温泉の周辺位置図

秋田県衛生科学研究所では毎年5月，8月，10月の年3回，八幡平地域の温泉について継続調査を行っていたが，八幡平の入山規制により5月の調査は延期された．

7月16日，秋田県鹿角土木事務所の許可のもと，災害後はじめて八幡平に入山したが，土石流の残骸や倒壊あるいは押し流された温泉施設付近の無残な現場を目の当たりにし，その規模の大きさと驚異的な力に恐怖を覚えた．

この度の地すべりについては，澄川温泉経営者の家族の話によると，災害のおよそ1週間前から，裏山から引いている飲料水の濁りが取れなかったり，コンクリートの舗装道路に亀裂が入ったり，さらには澄川温泉付近の澄川わきの斜面にも亀裂が入ったりの現象が見られていた．大沼の泥火山からは，大量の湯があふれていたとのことである．

災害の時間的経緯について，地元新聞の報道をもとにまとめてみた．

〈平成9年5月10日〉

午前2時頃，秋田県澄川温泉南側斜面の標高約900mの地点からおよそ35ヘクタールの山林が地すべりを起こし始めた(当日の魁新聞は“暗闇の中，山動く”のタイトルでこのニュースを報じ，澄川温泉の物置小屋や宿泊棟が土砂に押し寄せられ，破損した状態の写真が出た)．しかし，地すべりは数日前から始まっていたという考えも出されている．

〈平成９年５月11日〉

午前７時，現地調査団が澄川温泉に到着したが，山が動いてくるのがはっきり確認され，また，宿泊棟が土砂で押し上げられ，次々に崩壊した．午前７時40分，危険を察知し，現場を後にした．途中，約１Km下流の赤川温泉に立ち寄り，無人を確認して戻った．その直後，赤川温泉付近から蒸気のような噴煙が上がった．同時に，地響きをたてて土石流が赤川に流れ込み，濁流となって流れ下った．赤川沿いにある赤川温泉はこの濁流に呑み込まれ，事務所や旅館部等の７棟が全壊した．

地すべり・土石流の避難勧告が午前８時に出され，下流の熊沢川沿いの５施設と１集落の113名が避難した．

〈平成９年５月11日～〉

その後，雨の日が多かったことから，現地対策本部においては夜間も川の水位を見守る等の監視体制がとられた．また，秋田営林局では観測点を設置し，地すべりの変化について観測が続けられた．

この地すべり・土石流との関連は不明であるが，８月には焼山で爆発が起きている．

避難勧告を受けて閉鎖していた下流地域の温泉施設(志張温泉や銭川温泉)が再開したのは，８月に入ってからのことであった．

地すべりの後，澄川温泉付近では温泉が湧出し始めているが，酸ヶ湯のような硫酸酸性泉ではなく，低塩濃度の炭酸泉である．赤川温泉の旅館施設があった付近からの熱水の湧出は見られていない．

秋田県衛生科学研究所
武　藤　倫　子